

芦安小学校学校関係者評価書（後期）

平成31年1月23日（水）
学校関係者評価委員会作成

第2回 芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：平成31年1月23日（水） 午後7時～8時30分

会場：南アルプス市立芦安小学校多目的ホール

参加者：学校関係者評価委員

委員長 森 本 薫（芦安小中学校PTA会長，学校評議員）

副委員長 名取 大介（芦安小中学校PTA副会長，学校評議員）

委員 深澤 米男（南アルプス市市議会議員，学校評議員）

委員 三井 孝司（芦安窓口サービスセンター長，学校評議員）

委員 伊東 隆雅（芦安地区保護司，学校評議員）

学校職員 （小学校）校長 名取 昭彦，教頭 河野 瑞穂，教務主任 保坂 美紀子
（中学校）校長 石原 敬彦，教頭 辻 純二，教務主任 佐久間 和之

1 学校側からの提案された内容

- ①学校評価の方法について
- ②評価の全体的な傾向について
- ③後期教職員自己評価の結果について
- ④保護者アンケートの結果について
- ⑤児童アンケートの結果について
- ⑥今後の学校経営・運営について

2 協議された主な内容

- ①後期自己評価の結果について
- ②保護者アンケートの結果について
- ③児童アンケートの結果について
- ④各項目の評価・達成状況・改善策について
- ⑤小中一貫校の取組について

3 協議されたこと，質疑・意見

・評価書の保護者アンケートは，22という回答数から，家庭数ではなく児童数で回答してもらっているのか。

→子ども一人一人を通して保護者の感じていることを回答してもらえるように，保護者には，児童数で回答してもらっている。

・小中一貫校になるということで，大きな変わり目にある。学校に関わる人がいろいろな考えをもっている。まずは，いろんな考えや意見を気軽に言い合える関係や機会をさらに大事にしていかなければならない。書面での通知ではなく，話し合いの場をもってもらいたい。

・学校は学力を高める取組をしてくれている。学力をつけることも大事だが，まずは保護者の信頼を得て学校運営に関わってもらうことが大事である。

- ・児童とのコミュニケーションと保護者との信頼関係は良好であるとの説明があった。保護者のアンケートによると学校への否定的な評価はない。アンケートなどに表れない学校の実態があるかとも考えるが、小学校の教職員の信頼関係や職場の雰囲気はどうか。
- 校長として、職員は人財と考えており、そのことは年度当初に職員にも伝えた。校長として言わなければならないことは言うが、全教職員がお互いを大事にし、風通しをよく、力を合わせ業務にあたることができていると思う。
- 職員が校長を信頼し、安心して仕事ができている。
- ・保護者の「児童にとって学校は楽しいところだと思うか」という質問では、すべて肯定的な評価になっている。よい関係ができていると思う。アンケートに表れない部分も大丈夫であることが分かり安心した。
- ・前回の学校関係者評価委員会での「グランドデザインを子供達にもわかるものに」という意見をふまえて、概要版を作成した。変更点は、学校経営の努力点で「英会話科教育の充実」の項目を「コミュニケーションの能力の育成・向上」としたこと、乗り入れ授業・一部教科担任制授業、イングリッシュゲームを小中連携の取組に盛り込んだことである。小中一貫校となるにあたり、保護者と地域の方に向けた報告及び説明会の実施を予定している。また、連絡通路に関しては、来年度2学期から使用できる見通しである。

4 分析・評価

- ・少人数の利点を活かした「小中一貫教育」と地域連携を柱とした「芦安郷育」の充実は、保護者、地域の多くの方々に支えられている。小中一貫校となるにあたって、保護者や地域の方々とよりよい関係であることや芦安中学校との高い協働性がますます重要になってくる。また、何より大切なのは、風通しのよい職場風土と教職員の信頼関係である。今回の学校関係者評価で確認されたこれらを重視しながら、全教職員で常に学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、育みたい児童生徒に近づいているか、しっかりと総括をする中で、芦安小学校を特色づけている「小中一貫教育」「芦安郷育」のさらなる推進を図っていく。